

様式第3

会 議 録

会 議 名	令和元年度 自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会 第2回（専門部会）就労支援部会
議題及び議題毎の 公開又は非公開の 別	議題 野田市障がい者就労施設等事業・販売物品パンフレットにつ いて
日 時	令和元年11月27日（水） 午後3時から午後4時30分まで
場 所	市役所2階 中会議室1・2
出 席 委 員	部会長 柄澤 隆一            池田 実代 金城 和子            工藤 達 小俣 文宣            佐藤 大志 田中 大介            千田 浩美 内藤 鉄也            野村 祐一 日向 直子            藤澤 洋一 宮野 洋子            藤井 周
欠 席 委 員	岡田 莉保            桜井 美奈子 田中 徳寿
事 務 局	齋藤 剛（障がい者支援課相談支援係長） 佐野 清貴（障がい者支援課相談支援係主任主事） 伊藤 亜有美（障がい者支援課相談支援係主任主事） 森本 晃司（障がい者支援課計画係主任主事）
傍 聴 者	無し
議 事	令和元年度自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会第2回 専門部会（就労支援部会）の会議結果（概要）は、次のとおり である。
	1 開会  令和元年11月27日午後3時、開会した。会議録作成のため 録音機を使用することの了解を得た。岡田委員、桜井委員、田 中徳寿委員が欠席することを報告  2 議題

	<p>議題 野田市障がい者就労施設等事業・販売物品パンフレットについて</p>
森本主任主事	<p>前回の就労支援部会の提案のとおり、障害者優先調達法に基づく物品調達推進の一環として、各事業所が提供できるサービス等を紹介するパンフレットを作成する。6事業所から掲載の意向があり、資料のとおりパンフレット案を作成したので、内容に問題がなければ野田市のホームページに掲載を予定している。内容に修正がある場合や、新たに掲載を希望する事業所がある場合は12月13日まで事務局まで依頼していただくようお願いする。なお、パンフレット案については庁内で既に周知させていただいている。</p>
柄澤部会長	<p>期日までに各事業所で対応をお願いする。庁内で既に周知しているとのことだが、パンフレット案を基にした依頼はあったか。</p>
森本主任主事	<p>契約の締結にはまだ至っていないものの、事務局で把握している案件は2件あり、どちらも関宿地域の清掃関係の事業となる。</p>
柄澤部会長	<p>千葉県でも企業や事業所に対して情報を提供する事業として「チャレンジド・インフォ・千葉」を実施している。小俣委員の所属する事業所のつばさが参加しているが、この事業を通して仕事の依頼はあったか。</p>
小俣委員	<p>事業所には先月に1件、今月も1件の仕事の依頼があったが、先方がチャレンジド・インフォ・千葉を通して連絡してきたのかは不明である。</p>
柄澤部会長	<p>その実績を考えると、庁内で周知した段階で既に2件の打診があったというのは、良い兆候かもしれない。今後パンフレットをホームページに掲載すれば、更に依頼が来る可能性がある。ただし、企業が障がい者に依頼する場合、健常者と比較して低単価で検討している場合があるため、依頼があった際は工賃については企業に対して誤解のないよう説明する必要がある。各事業所において工賃はどのような状況か。</p>
内藤委員	<p>関宿心身障がい者福祉作業所では単発で低単価の案件が多く、満足できる工賃を支給することは難しい。その状況において、パンフレット案を通して庁内から打診を頂いたことは有り難く、前進したと感じている。</p>
野村委員	<p>野田市心身障がい者福祉作業所では自主事業と受託事業の両方を実施しているが、最近は受託事業の割合が少なくなっている。</p>
千田委員	<p>総活躍野田では、自主事業がないため受託事業を実施している。</p>

	<p>利用者の人数や能力に見合った案件でないと受託できないため、低単価になることが多い。市外の案件を探すなど工夫している。</p>
柄澤部会長	<p>各事業所とも工賃は伸び悩んでいるようだが、パンフレットの掲載をきっかけに工賃の上昇や継続した案件につながってくれればと思う。さて、次の案件について、事務局から説明を求めらる。</p>
相談支援係長	<p>千葉県障害者計画が令和2年度で終了するため、千葉県から各市町村に設置されている自立支援協議会に対し、次回の計画についての意見を求められている。11月18日の本会において意見を募集したところ、専門部会においても確認した方が良いという意見があった。突然ではあるが、次回の計画に対して意見があれば提案していただきたい。</p>
柄澤部会長	<p>次回の計画に期待するものはあるか。</p>
工藤委員	<p>次回の計画では、就労支援について単独で考えるのではなく、相談支援と連携した視点を期待したい。最近の利用者は就職だけでなく生活の問題を抱えている方が多く、相談支援専門員と連携して対応しないとほぼ全ての案件について支援が行き詰まってしまう。</p>
柄澤部会長	<p>障害者就業・生活支援センターは一とふるでも、利用者の背景が複雑化しており、生活面、生育面などに問題を抱えた方が多くなっている。生活に困窮していてすぐに収入を得たいという方に対しては、就労継続支援A型事業所を紹介することが多いが、市内の就労継続支援A型事業所の状況はどうか。</p>
佐藤委員	<p>ウィズパートナーにおいては、半数以上の利用者が当面の生活の資金を得たいという目的で事業所を利用しており、一般就労という目的を達成するのが難しい傾向にある。</p>
田中大介委員	<p>株式会社ホップにおいては、1年に1回ほど面接で就職の意向を確認することとしている。昨年は6人、今年も6人が一般就労に移行することが確定しており、就職できる利用者はそれなりにいる。地道に仕事ができる知的障がいの方は就職できる方が多いが、精神障がいの方は毎日定期的に出勤できない方がいることから企業から敬遠されがちである。</p>
柄澤部会長	<p>就労継続支援C型という概念を提唱している方がいる。生活介護を利用するほどではないが、高い工賃を求めることが難しい利用者が通所しやすい、昔の小規模作業所のようなイメージの事業所である。</p>

小俣委員	千葉県における就労継続支援B型事業所では最低工賃として5千円の額を求められているため高単価な仕事が必要だが、能力のある利用者でないと達成するのは難しい。一方で工賃にこだわらず毎日楽しく通所できれば良いという利用者もいる状況から、そのような概念が生まれたのだと思う。
柄澤部会長	<p>就労継続支援B型事業所の工賃と給付費の単価は連動しているため、給付費の減少を防ぐために運営側が就労継続支援C型事業所を求めている部分もあると考える。</p> <p>3 閉会 今後の開催予定について説明を行う。その他は特に意見がなかったため、午後4時30分、閉会を宣言した。</p>